

第 **51** 号  
平成31年  
4月1日発行

MIDORI KITAKYUSHU  
みどり北九州



北九州緑化協会

発行所

一般社団法人 北九州緑化協会

〒805-0033 北九州市八幡東区山路松尾町14番2号

発行人/水野貞明 編集/広報委員会

TEL.093-654-1233 FAX.093-654-1231

e-mail : [info@kita-ryokka.or.jp](mailto:info@kita-ryokka.or.jp)

ホームページアドレス : <http://www.kita-ryokka.or.jp>

ご挨拶

こちら公園緑地部 山田緑地×パルパーク・プロジェクト

環境と緑 平成30年度 公益活動報告

第11回「都市と自然の共生」シンポジウム開催

第42回都市緑化祭へ出展協力

「到津の森公園」環境整備支援活動

初めまして「○○」です

第2回「ランドスケープ交流会 in 北九州」の開催

樹木医からの一言

平成30年度 協会活動報告

山口ゆめ花博視察

会員名簿

掲示板



「写真:吉祥寺のフジ」

撮影:編集部

# ご挨拶



北九州市長 北橋 健治

一般社団法人北九州緑化協会の皆様におかれましては、日頃から、本市の都市緑化や公園緑地の維持管理業務など多岐にわたり、多大なご尽力をいただいております、深く感謝申し上げます。

また、「到津の森公園での園内整備」、「都市と自然の共生」シンポジウムの開催、「都市緑化祭でのイベント実施」など、環境緑化の推進にも毎年お力添えいただいております、厚くお礼申し上げます。さらに、昨年度の豪雨災害の際には、市内各地の公園等の復旧作業にご協力いただき、重ねて深く感謝申し上げます。

さて、昨年は、「SDGs 未来都市」や「2020年東アジア文化都市の開催都市」、「日本新三大夜景都市」への選定など、明るいニュースに恵まれました。今年も、「日本一住みよいまち」を目指して前進してまいります。

具体的には、引き続き「ものづくり・環境のまち」の進化を図るとともに、洋上風力発電の拠点形成、最先端のロボット研究開発と普及拠点の構築、24時間空港である北九州空港の強みを最大限に発揮する戦略など、地元企業の新たなビジネスチャンスにつながる機

会を創出し、多様な働き手が活躍できるまちづくりを進めてまいります。

また、SDGs達成を目指す先進都市として、公園緑地事業では、「住み続けられるまちづくりを」や「陸の豊かさを守ろう」などの目標実現に向け、桃園公園や城山緑地などの整備に取り組んでまいります。

このSDGsの達成には、市民の力を結集することが必要です。昨年11月には、本市のSDGsの取組の輪を一層広げていくため、市民・企業・大学などの交流を促進する「北九州SDGsクラブ」が発足しました。水野会長には、発起人としてご尽力いただき、北九州緑化協会の皆様にもご参加していただいております、深く感謝申し上げます。

今後、市民、企業の皆様と連携を図りながら、誰もが安心して暮らし、活力と賑わいにあふれる、住みよいまちづくりを進めてまいりますので、皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人北九州緑化協会の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



一般社団法人北九州緑化協会  
会長 水野 貞明

新年度を迎えるにあたって、一言ご挨拶を申し上げます。

お蔭様で昨年も、さまざまな協会活動を展開することが出来ました。公益活動として、到津の森公園での環境整備のボランティア活動、都市緑化祭への出展協力等々。

特に昨年の11月9日に市民も参加され開催した第11回「都市と自然の共生」シンポジウムでは、講師の池邊のみ千葉 大学大学院教授、島谷幸宏九州大学工学 研究院教授にご講演をいただきました。

このシンポジウムが、北九州市の住みよいまちづくりにおける「自然環境保全」や「生物多様性確保」の重要性について市民の理解の一助となれば幸いです。

さて、我が国は、これまで経験したことのない社会に移行しつつあります。急激な少子高齢化の進行と人口減少、気候変動に伴う地球環境問題、特に近年日本各地で頻発するようになった豪雨災害、また観光などで際立つグローバル化による世界的な都市間競争等々です。こうした社会的課題や環境問題の解決に対して、「グリーンインフラ」が、新しい社会資本整備のあり方としてクローズアップされてきました。これは、自然環境が

有する保水機能、大気や水質の浄化、良好な景観形成などの多様な機能を社会基盤として活用することによって、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを推進することであり、国の社会資本整備重点計画や国土形成計画にも位置づけられています。

私共は、日頃から「自然」や「緑」との関わりの深い業種ですので、地域の特性や自然資源を十分に生かす知恵や技術力を高めることによって、将来に向かっての社会的役割を見出すことが出来るのではないかと考えています。

本年も、美しい北九州市の都市景観の実現や潤いのある生活空間をめざす「都市緑化の推進」や、環境に関わる「都市と自然の共生」をテーマに、専業者であるとの意識のもと、より一層努力してまいります。

また新たな施工技術の向上、伝統的造園技術の継承・発展や経営の合理化に向けた取り組みも一層強化したいと考えております。

今後とも皆様方より一層の御指導・御支援をお願い申し上げますと共に、益々の御発展を心からお祈り致します。



北九州市の公園事業として、本市の地域資源を活かした特徴的な取組みをご紹介します。

## 山田緑地 × パルパーク・プロジェクト

### ■全国初の取り組み！

数奇な歴史を経て、小倉都市部近くに残された森。「30世紀の森づくり」をテーマにこの森を守り、育て、学び、遠い未来まで引き継いでいく公園が山田緑地です。

この山田緑地において昨年春より全国初となる取り組みがスタートしました。

2018年2月9日、「自然を楽しみ・学び、自由に遊ぶことで子どもたちがたくましく生きていく力を育む遊び場づくりを進めていく」という思いのもと、本市は株式会社小学館が発行する1981年創刊の老舗アウトドア誌『BEAL』とともに公園づくりに取り組み、包摂連携協定を



小学館『BEAL』の大森副編集長と北九州市市長



組んでいくことになり、包摂連携協定を

締結しました。

その最初となるプロジェクトとして山田緑地の自然を生かした新しい遊びの空間づくりを進めています。

このプロジェクト、単なる遊び場づくりではありません。『BEAL』が長年培ってきたアウトドアのノウハウとネットワークの力を得て、山田緑地が掲げる壮大なテーマ「30世紀の森づくり」を実現しようとする一大プロジェクトなのです！

### ■山田緑地「30世紀の森づくり」とパルパーク・プロジェクト

山田緑地は、かつて弾薬庫として使用され、約半世紀にわたり一般の利用が制限されてきました。そのため、周辺で都市開発が進む中、山田緑地周辺は開発されることなく森が残されました。

では弾薬庫以前はどのような場所だったのでしょうか？1934年（昭和9年）に旧日本陸軍が弾薬庫の建設・使用を開始する以前は、のどかな田園風景が広がり、その周辺の自然環境では人と自然の関わりを通じて里地里山環境が維持されてきました。

こうした里地里山の自然と文化、それを維持していく技術を将来に伝えていくためには森に手を入れ続けていく必要があります。

しかしながら、生活の材を手に入れるために森の管理を行っていた時代とは異なり、現代では森の手入れを通じて得られる材が活用されることはほとんどありません。

そこで、山田緑地では、森の資源に対する新たな需要と供給の関係をつくり、里地里山環境を維持することとしました。

「地産地創」をキーワードに山田緑地の森で手に入る木材やカズラなどの素材を使い、来園者自らが遊び場づくり、木工、焚き火などレクリエーションを創り出していく…。「30世紀の森」づくりの考え方による自然管理と『BEAL』の提唱する遊びの空間「パルパーク」の

コラボレーション。これが山田緑地×パルパーク・プロジェクトです。

### ■これまでのパルパークづくり

山田緑地の野草広場周辺を中心に、「遊び」を通じて、自然に触れ、自然に関わることができ空間を来園者自身が手作りできくりあげていきます。

#### タブノキの遊び場



野草広場の大きなタブノキを中心として丘では木登りや森の素材を使ったプランコづくりなどを行っています。

谷を抜ける風で揺れる葉の音、木漏れ日の心地よさ、さわやかな草木の香り、ごつごつとした大樹の樹皮、甘酸っぱいフユイチゴ…。五感を使って自然に触れ、自然に関わることの楽しさを知ってもらえるような空間をみんなでつくっています。

#### 水の学び場



山田緑地を流れる小熊野川。コンクリート三面張りの川が長い年月を経て、自然に取り込まれ、今ではいろいろないきものが暮らす場所となっています。

ここでは竹林から切り出した竹を使ってつくった網を片手に、流れる水に直接触れ、水辺のいきものたちの営みをそっとのぞいたり、川を楽しむ活動を行っています。

#### 焚き火の学び場



人と自然との関わりの中の「火」は大きな存在です。焚き火の学び場では「火」を使い、理解する取り組みを進めています。前方後円墳型の焚き火の学び場は子どもも大人も一緒に石を運び、地面を掘り、汗水流して完成させました。

倒木や枯れ木からつくった薪はパチパチと燃える火となり暖かさや穏やかな気持ちを与えてくれます。

### ■これから…

山田緑地内には長年放置された新炭林が点在しています。その環境を復元し、維持していくために萌芽更新による森づくり活動を来冬から行う準備を進めています。

萌芽更新とは樹木の伐採後、残された根株から出る新しい芽を育て森を更新していく方法で、伐採から約20年で新炭林として再生します。

森の中に20の区画を設定し、この管理を20年サイクルで繰り返すことで多様な林齢の森林をつくることができ、それぞれの森林環境を好むいきものが生息し、森全体として多様な生物空間が生まれます。

森づくりに関わった子どもが20年後、大人となり、自ら関わった森に再び入る…。

山田緑地では、見守りだけの自然ではなく、世代を重ね自然に関わる体験を通じて、人と自然の関係の在り方を考え続ける場になることを目指していきます。

(記・建設局公園緑地部)

# 環境と緑

## 第11回 「都市と自然の共生」 シンポジウム開催

11月9日(金)、北九州国際会議場において、シンポジウムを開催しました。

第11回目となる今回は、千葉大学大学院教授の池邊このみ氏、九州大学工学研究院教授の島谷幸宏氏を講師としてお迎えし、基調講演をいただきました。

その後、北九州市建設局公園緑地部長である奥田尚弘氏を交え、北九州市建設局道路計画課の竹島久美係長をコーディネーターとして意見交換会を行いました。



池邊このみ氏

### 基調講演①

池邊このみ氏「公園から街への潮流を創る—オープンスペースが新しいライフスタイルを生み出す—」

公園緑地法等の一部を改正する法律案の背景と必要性は？公園、広場、緑地、農地等のオープンスペースは、多面的な機能を発揮するべきである。景観、環境、防災、体験・学習・交流、にぎわい。「新たな時代のオープンスペースのあり方」提言から2年。企業団体における、変化への対処は？  
○「おじさんの街池袋」を公園が変える例として、2019年秋にオープンする池袋西口公園を紹介。「屋外の劇場空間×憩いの公園空間」をコンセプトとした池袋駅周辺の4公園で、四季を通して多彩なイベントを企画する。

### ○「IMAGE SUNSET BEACH PARK」をコンセプトとした、人間の五感を通して社会に必要な知識や体験を「気づき」として提案できる公園を目指す、稲毛海浜公園リニューアル計画の紹介。

いずれもスタイリッシュで、憩い(rest)とワクワクが楽しめる空間となっている。公園は都市のお荷物と言われることもある今、公園の価値を高めることを考えなくてはいけない。人口減少、空き家、中心市街地の空洞化、多くの都市の課題解決に、

公園というインフラが使えるものなのか試されている。

近年流行している「インスタ映え」そこから発展した一つである「おしゃピク(フォトジェニックなピクニック)」。こういったものを、商業的なものに踊らされるのはどうかという意見もある。しかし、写真を撮りたくなる場所が、現在若者が行きたい場所となっている。

今ある公園が美しいか!?「行ってみたい」と思わせるドキドキワクワクがあるか!?流行を「しようもない」で片づけられない。公園に全く興味を持っていない中高生を公園に呼び込み、緑・自然の良さに気付かせ、これからの親・子育てを豊かにさせる。未来のための投資の価値が十分にある。若者世代の意見を取り入れることは、子育て世代を呼び込むことに直結している。

公園の価値を高めるには、公園の事だけを考えてはいけない。もっと立体的なパースで考えよう。今までにはないもの。何が求められているのか。公園が変わると、街が変わる。新たな地域活力を生み出すことで、公園は地域の持続可能性を高め、地域の資産(不動産)価値を高めることが可能となる！

### 基調講演②

島谷幸宏氏「都市の水管理と緑」

グリーンインフラの導入を、アメリカでは1990年代の半ばに提唱している。日本は遅れている。

なぜ欧米ではグリーンインフラが盛んなのか?どの都市が魅力があるかという競争が激しいからである。日本でも力を入れて都市の魅力を上げれば集客に大きく関わるはず。



島谷幸宏氏

ヨーロッパでは、EU全体のエコロジカルネットワークより得られる価値は、年間30〜40兆円と見積もられている。グリーンインフラは洪水を防ぎ、CO<sub>2</sub>を固定し、蒸発散によりヒートアイランドを防ぎ、大気汚染を防止し、健康増進につながり...と、とても大きな価値を見出している。

アメリカでは、都市の雨水管理システムをグリーンインフラに変えた。コストが安い、導入に要する期間が短い、都市が綺麗になり都市の価値が上がる。その取り組みの一つとしてレインガーデン(雨庭)がめいにわ(スポンジパーク)がある。ニューヨークでは湿地帯の復元にも取り組んでいる。

治水は浸透が基本である。良好な土により良好な緑を増やす。良好な緑は、100%以上の水を浸透させる。

近年の大規模災害から学び今後役に立てる取り組みとして福岡県樋井川流域での活動を紹介します。既存住宅を、穴あき雨水タンクを活用しリフォームした「あめにわ憩いセンター」では、現状では敷地に降った雨の99%が流出してしまっただが、良質な土であれば流出量は60%に抑えられるとの計算を基に設計を行った。「あまみずためるんじやーZ」というレンジャーの活躍や「みずべりんぐ樋井川」水辺で乾杯プロジェクト等、参加しやすい活動を行い、子供が



意見交換会(左から竹島氏、池邊氏、島谷氏、奥田氏)

行きたい↓親がついて来る↓祖父母も参加するという連鎖により、地域の巻き込みを実現した。その結果、平成30年の北部九州豪雨レベルの大雨で流出量98%カットの抑制効果を得た。

災害大国である日本こそ、昔からの技術であるグリーンインフラを活用しない手はない。建築・土木・造園が一つとなり知識や技術を出し合って雨水社会を造っていく。

**意見交換会**

○公園は活用されておらず不必要と言われることが多く、普段からシャクでたまらない。北九州市の人口が減少している中で、勝山公園の周辺は多くのビルが建築され、唯一人口が増えている。公園の力が不動産価値を高めた結果だ。

○今までの緑の概念を、これからのグリーンインフラへ移行させるには、緑を生態系の一つと認識した上で、健全な都市生態系を

求めるとよい。本当は街路樹だつて、いろいろな種類の木を植えた方がいいに決まっている。

○あまみず管理の基本は、「慎み深い生活をしよう」ということ。日本人が元々持っている、今あるものを大切にしよう、人に迷惑をかけないようにしよう、という高潔な精神設計をもってグリーンインフラにつなげよう。空き地という無価値に感じるが、水を蓄えているのだ、温暖化を抑制しているのだ、とも受け取れる。都市の緑の評価手法を、量的ではなく質的に変えるとうい。

○成功例を真似して日本に同じものを氾濫させても、何も面白くない。現在のワークショップは、公園・緑に興味がある人しか参加しない。「公園はいらない、つまらない」という意見を全くすくい上げられないようでは意味がない。それを拾い上げるのがコーディネーターである。

○都市マスマプランを考えるときに、「人の人生」を見落としがち。緑・自然に関心を持つことで精神的な作用があり、心の健全を育み保ち、企業でも大きな問題になつている心療にかかる社会保険料を小

さくすることにもつながら。そんな風土創りを目指すと素晴らしいと思う。

○今、世の中の価値が変わり、二極化している。キャンプにしても「至れり尽くせり」が人気。これは経済循環をもたらす。都市の人間と田舎の人間が交流し、これもとても面白い作用。しかし、「全て至れり尽くせり」は良くない。多少の面倒くささも面白いし、商売にもなる。公共空間の在り方が大きく変わってきて、エネルギーの分散化に向かっている。全く予想がつかないから面白い。「至れり、

**第42回 都市緑化祭へ出展協力**



快晴の10月21日(日) 過去2年雨天中止になつた都市緑化祭がグリーンパークで開催されました。事業委員会を中心に若松支部の協力を得て「グランドゴルフdeホールインワン」と名付けたゲームを出展しました。

抜けるような青空の下、大芝生広場の一角に設けたコースで子ども約120人、大人約60人がゲームに興じました。公園など屋外で遊ぶ楽しさをわかつていただけたと思います。

**到津の森公園 環境整備支援活動**



「平成」最後となる第11回目の支援活動を2月26日(火)に会員企業から30名の皆さんが参加し実施しました。すでに春と思える汗ばむ天候の中、今年は主に枯損樹木の撤去、低木剪定などの作業を行い、雑然としていた樹林地がすっきりとなりました。

これから暖かくなり公園を訪れる方が多くなりますが、爽やかさを感じてくれると思います。

「至れり、尽くせり」「オシャレ」「慎み深い」と共に混沌とした世の中で、面白いことをたくさん見つけてほしい。今日本は停滞しているので、北九州で面白い活動を始めてください!

今回のシンポジウムでは、見落としてしまつている北九州市の都市としての魅力を、視点を変えて再発見し、新たな価値を付加して打ち出すこと。また、北九州の土地を生かした、独自の自然生態系の形成の重要性を考えるよい機会となりました。

「平成」最後となる第11回目の支援活動を2月26日(火)に会員企業から30名の皆さんが参加し実施しました。すでに春と思える汗ばむ天候の中、今年は主に枯損樹木の撤去、低木剪定などの作業を行い、雑然としていた樹林地がすっきりとなりました。

これから暖かくなり公園を訪れる方が多くなりますが、爽やかさを感じてくれると思います。

# 初めまして「〇〇」です

(市職員の横顔)

建設局公園緑地部  
緑政課

藤津 哲さん

はじめまして。建設局公園緑地部緑政課の藤津哲です。

戸畑区で生まれ、八幡東区で育ち、東筑高校を卒業後、九州大学農学部へ進学しました。高校時代はラグビーに没頭し、大学時代は放置竹林問題をテーマに、竹林が拡大するメカニズムについて研究しました。その後、「地元北九州のために働きたい」、「植物や自然に関わる仕事がしたい」という思いで北九州市の造園職を受験し、2015年4月より市の職員として北九州市に戻ってきました。

趣味は前述のとおりラグビーです。現在も社会人クラブチームでプレーしており、昨年度は九州大会で準優勝しました。2019年はラグビーワールドカップイヤーで北九州市もウェールズ代表のキャンプ地に選ばれています。ウェールズ代表は世界ランキング3位(2019年2月現在)の強豪です。北九州市でワールドカップの試合があるわけではありませんが、このような強豪国の練習を間近で観る機会があったにないのと、とても楽しみです。皆様、2019年ラ



グビーワールドカップは日本代表とウェールズ代表を応援しましょう!! さて、ここで少し仕事の話に触れておきたいと思います。

最初の職場である若松区役所まちづくり整備課で3年間を過ごしたうち、建設局公園緑地部緑政課に異動しました。緑政課では主に、「旧安川邸利活用事業」を担当しております。旧安川邸は、2018年8月に北九州市指定文化財となるなど文化的価値の高い施設です。指定文化財という性質上、通常の公園工事と異なることも多々ありますが、公園緑地部内に限らず、建築、電気、機械、文化などの関係部局の協力を得ながら事業を進めております。

市の職員としても造園職としても駆け出しではございますが、ラグビーで培った気合いと根性で足りない知識や経験をカバーしていければと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

## 第2回「ランドスケープ交流会」 in 北九州」の開催



造園業界の将来の中軸を担う若者を新たな人材として確保するため行っている交流会には、行橋高校から2年生4名(先生1名随行)、西日本短大から1年生2名の参加がありました。昨年の行橋高校の参加者1名が会員企業に就職することもあって、環境緑地科のある行橋高校は、「学んだことを活かせる」就職先の一つとしてあげてくれてるようです。

今年も北九州市中小企業振興課から助成を受け平成31年1月12日(土)に開催し、北九州市公園緑地部の茂田係長から公園事業の説明を受けた後、勝山公園松の丸広場整備工事と延命寺臨海公園整備工事の現場を見学し、両方の現場代理人から仕事の面白さや多様な知識の必要性など、とても参考になるお話が聞けました。

午後は小松理事から樹木医という仕事のお話、藤田副会長から世界中の都市緑化の状況など、「造園」という仕事の広がりのお話を伺いました。その後、協会会館で会員企業12社の参加を得て、学生・生徒と率直な情報交換を行い盛会のうちに実施することが出来ました。



## 樹木医一言

### 水野貞明からの

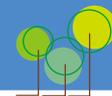


23

### マツと土壌環境

・日本各地にマツが多くなったのは今から千五百年位前からだと花粉分析の結果が示している。  
・日本のマツ林と言えは海岸クロマツ林と里山アカマツ林が代表的である。ともに先駆的性質が強く、菌根菌の力を借りて荒れ地によく耐え成林することができる。  
・成林したマツ類は、遷移の進行に従って広葉樹に移行するのが普通である。アカマツが残るのは尾根筋など他の樹種が侵入できない劣悪な環境に限られるし、クロマツも天然生の個体は岩場などに見られることが多い。  
・マツ類では、土壌養分と菌根の発達の関係を見た場合、土壌が肥沃であると菌根の発達が相対的に悪くなる。根系と地上部との比率自体も地上部寄りに偏るため、全体として根の能力が衰えることになる。  
・アカマツやクロマツと共生する菌根菌には有機物の多い土壌を嫌うものが多い。肥沃化した松林では菌根菌が減少し、土壌病原菌の密度は荒れ地より高くなりやすいため、菌根の防御機能も十分に働かなくなると考えられる。  
・土壌が貧栄養なままであれば、マツは根系や菌根の発達もよく十分に耐環境性を発揮でき、マツ林が継続することになる。  
・通常は落枝落葉が蓄積するし、草本や灌木が生えて土壌の形成が進み、肥沃化する。その過程を阻止してきたもの、それは人間である。  
・かつてマツ林は燃料などの資源供給地として重要だったが、その資源とは、松葉や松かさ、枯れ枝や灌木など今でいうバイオマス資源であった。これらを林外に持ち出してしまえば、土壌に有機物が蓄積することはない、貧栄養な状態が維持されることになる。つまり人間は、マツ林で松葉掻きや柴刈りをする中で林内の土壌環境をマツと菌根菌に適したものに維持してきたのである。  
・マツは菌根菌と共生することによって高い耐環境性を備え、厳しい環境に耐えて成林することができ、人間による資源収奪圧に耐えて最後まで残る樹種ともなった。  
・乾燥や貧栄養に対しては強力であるマツと菌根菌の組み合わせも、土壌が富栄養化すると無力で、菌根は衰退してマツは脆弱化し、広葉樹に置き換わっていく。  
・この過程を数百年にわたって止めてマツ林という生態系を維持してきたのは人間である。日本の人里近くのマツ林は、人間を含めた三者共生を基軸として成り立ってきたのである。

# 平成30年度 協会活動報告



平成30年

4月11日  
響灘緑地研修館で「刈払機取扱作業安全衛生教育」を実施した。(17名受講)  
**(技術委員会)**

4月18日、19日

響灘緑地研修館で「伐木作業(チェーンソー)特別教育」を実施した。(26名受講)  
**(技術委員会)**

6月13日

定時総会を響灘緑地研修館で開催した。平成29年度決算及び平成30年度予算が承認された。監事が入部國昭氏から高尾文章氏への交代が承認された。また、内山緑地建設の丹秋男氏が永年勤続表彰被表彰者として表彰された。  
**(総務財政委員会)**

10月13日

「山口ゆめ花博」、「防府毛利庭園」へ会員企業等から28名が参加し視察研修を行った。  
**(総務財政委員会)**

10月21日

第42回「都市緑化祭」に若松支部の協力を得て出展した。  
**(事業委員会)**

11月9日

第11回「都市と自然の共生シンポジウム」を北九州国際会議場において、池邊このみ千葉大学大学院教授、島谷幸宏九州大学工学研究院教授を講師に迎え開催した。会員27名、行政12名、市民等35名の計74名が参加した。  
**(総務財政委員会)**

11月18日

親睦グラウンドゴルフ大会を合馬竹林公園で会員企業からの参加者や応援者37名で開催した。  
**(事業委員会)**

平成31年

1月12日

第2回「ブランドスケープ交流会 in 北九州」(人材確保策)を行橋高校2年生4名(先生1名随伴)、西日本短大1年生2名、会員企業12社の参加を得て行った。  
**(総務財政委員会)**

1月18日

「新春みどりの集い」をステーションホテル小倉で北九州市から北橋健治市長、今永博副市長、横矢順二建設局長など行政関係者、また井上秀作北九州市議会議員、山本幸三衆議院議員ほかのご来賓にご臨席いただき、参加者75名で開催した。  
**(総務財政委員会)**

2月26日

「到津の森公園」環境整備支援活動(木剪定、枯損木撤去など)を会員企業から30名が参加して実施した。  
**(事業委員会)**

年間

勉強会を協会会館にて開催した。6回に渡って継続的に行い、ドローン、空調服、フルハーネス等を話題にしながら、実務担当者同士で意見交換を行った。  
**(青年部)**



伐木作業(チェーンソー)特別教育



伐木作業(チェーンソー)特別教育



グラウンドゴルフ大会



新春みどりの集い



定時総会



永年勤続表彰 丹秋男氏

広報紙「みどり北九州51号」の編集作業及び協会ホームページの更新作業を行った。  
**(広報委員会)**

そのほか北九州市が主催する「第23回花と緑のまちづくりコンクール事業」(建設局)へ協賛した。

## 山口 ゆめ花博視察



快晴の平成30年10月13日(土)に会員企業等28名が参加して「山口ゆめ花博」及び「防府毛利庭園」の視察研修に行きました。

何より驚いたのは、花博の入場者の多さです。当日は、63987人もあったそうで広い会場にもかかわらず満員感がありました。来場者総数は山口県の人口と同等の136万人を超えたそうです。

かなり不便なところに位置する会場ですが、「花には人を引きつける魅力」があるのかもしれない。面白かったのは、「巨大な砂山」と今流行りの「クライミングができるハイタワー」です。シンプルですが、遊びの原点に帰ることができると思います。

「防府毛利庭園」は、明治時代に造営が始まり大正5年に完成した回遊式の庭園ですが、松が際立って野趣に溢れ周囲の自然に溶け込んでいました。



一般社団法人 北九州緑化協会 会員名簿

(平成 31 年 3 月 12 日現在)

支部	商号	所在地	TEL・FAX	支部	商号	所在地	TEL・FAX
門司	九州環境土木(株)	800-0112 門司区大字畑 46	481-3484 481-3483	八幡南	(有)岡野造園土木	807-0845 八幡西区永犬丸南町 2-13-38	613-3804 611-2952
	(有)西新緑地建設	800-0114 " 吉志 5-12-10	481-5467 481-5476		(有)河村造園	807-1153 " 岩崎 4-1-34	618-7170 618-7515
	(有)豊西緑地開発	801-0823 " 春日町 25-24	341-3456 342-1111		(株)後藤緑化建設	807-1143 " 楠橋南 2-11-19	618-5384 618-6707
	(有)松本造園建設	801-0811 " 大字大積 666-8	341-1501 341-1502		(有)サン緑化	807-1114 " 吉祥寺町 7-40	618-1567 618-4684
	(株)水野文化園	800-0112 " 大字畑 46	481-4600 481-4680		(有)田代造園	807-1262 " 野面 740-1	617-1792 617-4518
	(株)門司造園	800-0101 " 大字伊川 504-9	481-2918 481-2630		東洋緑地(株)	807-0854 " 泉ヶ浦 2-22-41	883-8972 883-8855
	(有)門司緑地土木	800-0101 " 大字伊川 504-1	481-1897 481-1993		(株)中川碧水造園	807-1125 " 池田 2-1-3	618-0822 618-6101
	(株)青葉造園	802-0023 小倉北区下富野 5-1-3	522-0234 533-7922		平方晴宏園	807-0075 " 下上津役 3-20-24	612-5677 612-5701
小倉北	(有)アートグリーン	802-0033 " 富野台 11-8	533-3735 452-1340	(有)医生ヶ丘産業	807-0803 " 千代ヶ崎 3-1-6	601-8688 601-5338	
	朝日工産(株)	803-0853 " 高尾 1-38-5	592-4910 592-4261	(株)折園	807-0863 " 大膳 1-14-22	601-1528 691-3063	
	内山緑地建設(株)北九州支店	803-0841 " 清水 1-12-15	581-2741 571-5392	(株)九州緑化建設	806-0055 " 幸神 4-4-3	642-1267 641-0859	
	(株)梅田造園土木	803-0861 " 篠崎 3-22-5	592-0516 592-0520	(株)古賀造園	807-0806 " 御開 3-1-5	601-0495 601-9574	
	岡崎建工(株)	803-0846 " 下到津 5-9-22	581-4327 581-4632	(有)清水造園	806-0047 " 鷹の巣 2-6-30	631-0694 631-0703	
	北九州東部緑地管理(株)	803-0814 " 大手町 5-23	591-1487 591-1489	(有)千成造園土木	807-0875 " 浅川台 1-8-1	603-8050 603-8071	
	(株)九州造園	802-0026 " 大島 2-10-1	531-6121 531-6123	(有)古門造園	806-0011 " 紅梅 4-6-5	622-4087 622-4088	
	(株)九州緑化産業北九州支店	803-0856 " 弁天町 5-8	561-9027 561-9208	(有)山代造園土木	807-0852 " 永犬丸西町 2-1-10	693-9718 693-9706	
	(株)西日本緑化	803-0836 " 中井 3-3-15-107	581-4128 561-5476	(有)渡辺造園	807-0826 " 丸尾町 11-3	602-8336 602-8362	
	(有)緑地管理中山工房	803-0835 " 井堀 5-3-3-202	653-4152 613-0447	若松	遠藤土木(株)	808-0142 若松区青葉台南 2-4-14	742-0331 742-0332
青葉緑地建設(株)	802-0826 小倉南区横代南町 3-12-15	962-6175 962-6904	(株)オーエヌグループ		808-0121 " 大字竹並 3037	741-0648 742-0370	
(株)環境造園	800-0207 " 沼緑町 1-19-15	471-6390 472-4070	岡崎造園(有)		808-0001 " 小石本村町 2-1	771-9255 771-8580	
(有)協同造園土木	800-0207 " 沼緑町 1-8-75	473-1509 473-3911	荻迫緑化		808-0146 " 高須西 2-6-17	741-6816 741-6819	
(有)グリーンカンパニー	800-0228 " 長野 1-8-22	474-5677 474-5733	(有)三司緑化建設		808-0106 " 片山 1-2-33	701-1565 791-7955	
小倉造園(株)	802-0821 " 横代北町 5-22-36	962-1136 962-1046	(株)三宮造園土木		808-0104 " 畠田 3-4-12	701-0422 791-9223	
(有)小倉南緑地	802-0979 " 徳力新町 1-15-23	963-0769 961-5649	(有)洞北緑地建設		808-0133 " 大鳥居 14-2	741-1820 741-1848	
総合緑地建設(株)	803-0261 " 大字合馬 301	453-1678 453-1677	日本緑営(株)		808-0104 " 大字畠田 943-1	791-0440 791-0441	
(有)千代丸造園	800-0208 " 沼本町 2-9-22	474-5400 474-5401	(有)平和造園		808-0001 " 小石本村町 1405-2	761-2298 330-4085	
(有)林造園	803-0261 " 大字合馬 981	451-1876 451-1819					
(有)日浦緑地建設	800-0201 " 上吉田 5-18-14	473-5296 473-5256					
豊州造園建設(株)	800-0242 " 津田 5-9-24	473-6967 473-8084					
(株)みらい	800-0222 " 中曽根 3-7-32	472-5999 472-4999					
(株)守恒造園建設	802-0986 " 志井鷹羽台 4-3	962-4211 962-4272					
山本興業(有)	803-0261 " 大字合馬 234-1	451-2312 451-2312					
東戸	(株)グリーンニッポ	805-0017 八幡東区山王 3-14-28	662-3201 671-1423				
	菅原造園建設(株)	804-0094 戸畑区天神 2-2-21	883-1120 883-1121				
	眞矢造園	804-0032 " 西大谷 1-5-7	881-0711 881-0770				

賛助会員

商号	所在地	TEL・FAX
(株)成光社	803-0853 小倉北区高尾 2-5-33	561-1821 561-1820
総合園材(株)	812-0882 福岡市博多区麦野 3-18-20	092-588-9088 092-588-9220
日本乾溜工業(株)	806-0046 八幡西区森下町 27-36	631-0237 622-2357



『響灘緑地研修館』は、公益目的の研修活動であれば協会員以外の方もご利用いただけます。詳しくは協会ホームページをご覧ください。

所在地 北九州市若松区大字安屋 900 番地 11

緑について気軽にご相談ください。

一般社団法人北九州緑化協会 TEL:093-654-1233

掲示板

本誌「みどり北九州」第 51 号作成しました。本誌は当協会活動や北九州市の緑化事業に関する情報発信を目的としています。また当協会ホームページでも活動内容や、「みどり北九州」のバックナンバーなどもご覧になれますので是非、お気に入りに加えてください。(広報委員会)  
青年部では各社の代表になられる若手の方、もしくは主力となる若手社員を主な対象として活動しております。自薦・他薦を問わず、新しい方のご参加をいつでもお待ちしております。(青年部)

編集後記

平成 31 年 4 月発行の本誌、これが平成最後の広報誌になります。この「平成最後」という言葉、もう聞き飽きたでしょうが、やはりひとつの区切りです。過ぎ去った時を振り返ると、いくつかの時代の変化点が思い起こされます。当協会もその内容を変えながらも、継続して活動を行ってきました。それらをきちんと記録して現状を正しく認識すること、それが時代の変化に対応する手助けとなるように思います。当協会に関係する皆様にとって、この広報誌がそういった役目を果たせれば幸いです。(T.S)